



2026春闘を職場・地域から連帯して闘おう！ ⑦

## 春闘勝利！ 団結して闘うぞ！ JRひがし労と春闘総決起集会を合同開催

3月3日、JR東海労・JRひがし労合同「2026春闘勝利！総決起集会」を開催しました。集会には、回転寿司ユニオンの仲間も参加し、春闘を共に闘うことを意思統一しました。冒頭、JRひがし労蒔田青年部長の音頭で、力強いシュプレヒコールを行いました。

主催者を代表して、淵上委員長は「アメリカ・イスラエルによるイランへの軍事攻撃で、現時点で568人の市民と戦争に駆り出された兵士が亡くなった。直ちに、戦闘は止めるべきだ。平和であるからこそ、春闘を闘える。産業報国会には労働組合は存在しない。連合は、賃金の格差要求をしているが、これは労働者の分断でしかない。企業は生き残りをかけての賃上げであるが、私たちはこれに抗して、労働者の連帯で闘う」と挨拶しました。

その後、各単組から団交報告を行いました。JR東海との団交について、斉藤副委員長は「会社はリニアを理由にして賃金抑制をしている。労働組合のチェック機能を発揮する」と報告しました。医療法人との団交について、成田副委員長は「春闘団交を5月に開催するとした代理人を許さず、あっせん申請の闘いで反撃する」と報告しました。JR東日本との団交について、JRひがし労井上業務部長より「生活実態に見合う要求として、組合員との議論を積み重ねてきた。組織拡大春闘と位置づけて闘う」と報告されました。回転寿司ユニオン吉田書記長より、「会社側から『レシピを守っていない』と労働者に責任を転嫁され、レシピを守る順法闘争を展開した。闘争に対し皆さんからの激励に感謝する。会社側は、第二組合をつくって対抗しているが、我が方に組織化する闘いを展開する」と報告されました。

報告を受けて、参加者からの決意表明を行いました。

まとめで、JRひがし労茂木副委員長は「企業内労働組合の春闘は終焉した。職場に立脚した闘いを展開する。我々には、同じ目的に向かって闘う仲間がいる。自分が労働者であることを自覚しよう」と訴え、集会は成功裡に終了しました。

